

## 県域を越えた、新たな挑戦へ



### 佐藤 欣司氏

延岡市 延岡市工業振興課企業立地係長 メディカルタウン推進室長補佐

(※所属は 2013 年 12 月時点)

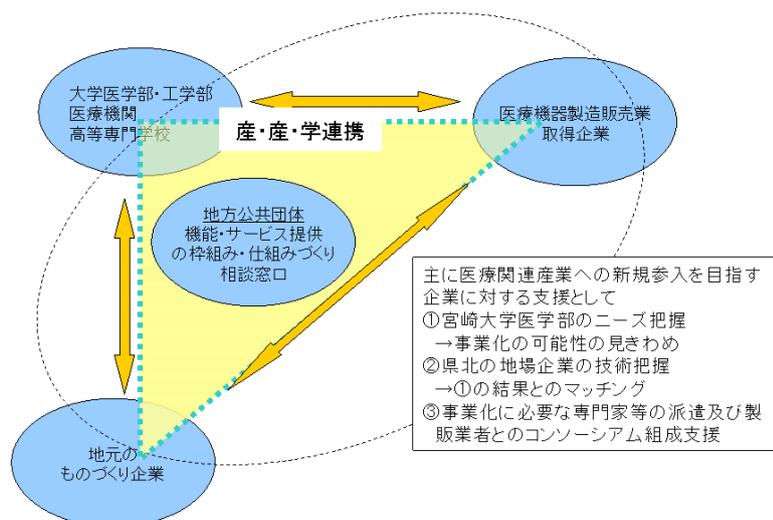
宮崎県延岡市は宮崎県と大分県の県境に位置し、人口は約 13 万人。旭化成グループの発祥の地でもある。佐藤氏は平成 22 年度の人事異動で「メディカルタウン担当」に任命され、延岡市メディカルタウン構想の策定と推進に携わってきた。

### 1. 「メディカル産業と健康長寿が花開くまち」を目指して

平成 22 年に、宮崎県と大分県の共同で、「東九州メディカルバレー構想」が打ち立てられた。本構想では、血液や血管に関する医療を中心として産学官が連携を深め、更なる医療機器産業の集積を目指している。

宮崎県と大分県の構想を踏まえ、延岡市として取り組むべき方針を、「メディカルタウン構想」として取りまとめた。延岡市には、旭化成グループの企業とそれを支えてきた優秀な技術を持つ地場企業がある。これに加えて、国内トップクラスの実習設備を保有する九州保健福祉大学がある。このような資源を活かして、医療機器の研究開発促進や地場企業の医療関連産業参入支援、医療関係産業の誘致、医療技術者の育成と交流促進、健康長寿施策の研究等を進めている。

その取り組みの一つとして、延岡市と日向市、門川町の協働による「医療機器等開発サポート事業」を展開している。本事業では、製販企業を起点として大学等と地元のものづくり企業のマッチング支援を行い、ものづくり企業の医療関連産業への新規参入を促している。現に、市内の医療機関の要請に基づいて医療補助具が制作された例もある。



図：医療機器開発サポート事業の目指す方向性

出所：第二回全国支援機関ネットワーク推進会議（2013/8）佐藤氏発表資料より

## 2. 困ったことがあったら外の力を借りる

佐藤氏は現職の前、商業観光課において中心市街地の活性化業務に携わっていた。現在のポストに異動した後、すぐにメディカルタウン構想の策定と推進に携わることとなった。着任当初は医療機器産業に関する知識は持ち合わせていない。最初は不安の方が大きかったという。

そこで、各地で開催されるメディカル関係の展示会に出かけて名刺交換を続けた。このような活動を通じて、神戸市のアドバイザーの方と出会い、佐藤氏の仕事も転機を迎えたという。その方は、今でも地方都市は人材が不足しているということを理解してくれた上で最大限の支援をしてくれている。このような人的ネットワークの構築は、本事業の推進に大いに役立っているという。

また、本事業は延岡市と日向市、門川町など複数の自治体が協力しながら進めている。「それぞれの組織が思い描く目的へと近づくためにはどうすれば良いか」を考えながらストーリーを作っていくことこそが重要であるという。

困ったことがあったら外の力を積極的に活用するために積極的に行動する佐藤氏の姿は、他の自治体にとっても参考となるだろう。

（2013年12月 掲載）

※本原稿は、第二回全国支援機関ネットワーク推進会議における佐藤氏の講演内容等を元に三菱総合研究所が作成しました。

### ■佐藤欣司氏 プロフィール

平成6年延岡市役所入庁。国民健康保健課にて6年間保険税の徴収を担当した後、1年間旭化成㈱に研修派遣。その後、企画課、商業観光課を経て、現職。多くの方々からの協力を得ながら、手さぐりの中で「メディカルタウン構想」の推進に取り組んでいます。

### ■関連サイト

[延岡市 メディカルタウン構想 \(Website\)](#)

<http://www.city.nobeoka.miyazaki.jp/display.php?cont=121029084358>